

自然再生活動 2018 年活動実施報告（三陸）

- いぐね（屋敷林）と地域らしい植物に守られた、
豊かな農村風景の再生を目指して -

気仙沼市の地域在来植物の 保全・育成・植栽活動



～ 心にある海への風景を 次の世代に ～

特定非営利活動法人 山の自然学クラブ

<http://www.shizen.or.jp/>

特定非営利活動法人 山の自然学クラブ

2018 年の本活動は、財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 の
平成 30 年度「花博記念協会助成事業」の助成を頂いて進めました。

南三陸・気仙沼を中心とした自然再生活動

いぐね（屋敷林）と地域らしい植物に守られた、豊かな農村風景の再生を目指して

山の自然学クラブ 自然再生活動部会

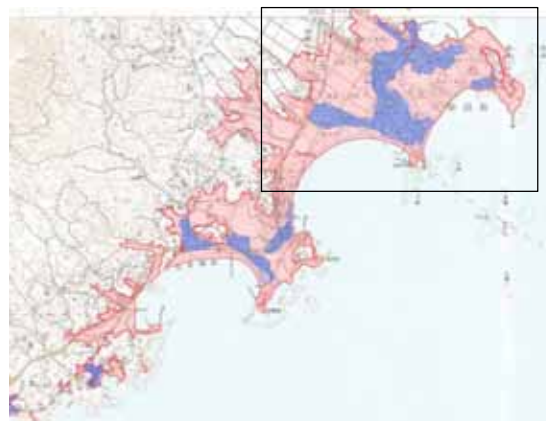
山の自然学クラブでは自然再生活動部会を中心に 2011 年から三陸南部地域において自然再生等の活動をしています。2012 年から気仙沼市の「海への森をつくる植樹祭」の関係者に、植樹祭の準備や種子採取、山取苗の採集、苗木の育成などの活動をさせて頂いたことがきっかけとなり、気仙沼周辺での活動を始めました。富士山森林復元活動などで培った実績が活かせる活動として、楽しく取り組ませて頂いています。これまで主に、(1)自然観察会を兼ねながら、現地の植生等の調査をする、(2)自然を深く、体系的に知るための観察会（自然学講座、地元学講座）/ エクスカーションを地域のみなさんと一緒に実施する、(3)希少種を含む海岸植物・海岸林の種子等採集活動と苗の育成、を行ってきました。これまでの協働を通じて協力関係のできた気仙沼市の特定非営利活動法人・海への森をつくろう会の担当者やジオパーク協議会の委員、地元高校の教員のみなさん、そのほか、各地の NPO のみなさんなどと一緒に活動して意識の共有を図り、現地参加者を募集して頂くなどして、地域の環境教育に資するよう活動して参りました。



2018 年活動：気仙沼市の地域在来植物の 保全・育成・植栽活動

気仙沼周辺では、海岸植物は 2011 年の津波後には全く見られなくなっていました。2014 年頃から少し定着した個体を見るようになってきたため、海岸植物を探しながら、砂浜、磯、海崖といった特徴のある海岸植生を数カ所選んで、住民のみなさんと継続的に一緒に歩き、再生した海岸植物のある場所をマッピングし、代表的な植物種をリストアップしました。改めて近隣周辺を含めて、海岸植物の生育・復元状況について調査、整理してみました。そして、文献調査も同時に進めつつ、典型的な植物や希少種を含む場所を何カ所か選定して継続的な調査も行っています。調査だけではなく、許可の取れた箇所では希少種を含む海岸植物の種子や実生の採取を行っています。これらの立地は現在、そして今後も工事等による改変が予定されている場所であり、種子・実生および採取した個体は保育活動を継続し、適宜現地へ戻すことを検討していく予定です。

また、海岸植物の生育地、希少種情報は海への



図：対象地付近の地図 日本地理学会災害対応本部津波被災マップ作成チーム（2011）2011 年 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震に伴う津波被災マップ 2011 年完成版から【2 万 5 千分の 1・津谷】部分、http://www.ajg.or.jp/disaster/201103_Tohoku-eq.html . 下地図の枠周辺が気仙沼市波路上地区。矢印で示した場所が海への森をつくろう会事務所の場所。

森をつくろう会等、地域団体のみなさんと共有すると共に、気仙沼市役所、宮城県自然保護課、気仙沼市教育委員会等へ随時情報提供をしており、自然公園や海岸林の保全事業へ役立ててもらおうようにしていきたいと考えています。

1. 種子採取～苗の育成および屋敷林再生活動

種苗の採取・苗の育成 植樹・自然再生のための苗木の育成に協力しています。海べの森をつくろう会が活動を始められた頃から種子の採取、苗の育成に協力させて頂いています。現地スタッフ・参加者のみなさんともできるだけ一緒に、種子採取、種子の調整、播種などを実践してきました。毎年採取した種子から苗を作って、近隣での植栽に活用させて頂いています。2018年9月には東京農業大学の治山・緑化学工研究室にご協力いただき、種子採取活動を実施しました。毎年、海岸から山地まで、自生の母樹がある数カ所で種子を採取しています。海岸植物の種子採取も可能な範囲で行っています。今回はハマボス、ハマナス、ハマサジなど海岸植物のほか、近隣に多いモクゲンジ、サイカチなども採取しました。また、このときに参加した学生さんが、1年～3年間大学でみなさんが育成した苗木を持ってきて下さいました。気仙沼市、唐桑、南三陸町で採取した種子から育てたエノキ、シラキ、ミズキ、タブノキの苗木です。目録と一緒に贈呈させて頂きました。今回も採取した種子は気仙沼と東京農大と両方で、調整の後、発芽、育苗することになっています。育てた苗は内陸の二次林を目標にする場所/海岸に近いところなど、場所に依りて使い分けながら植栽する予定です。

屋敷林(いぐね)再生活動 海べの森をつくろう会活動地のひとつ、第1回の植樹祭を行った場所を、屋敷林として再生させていただくための協定を締結し、屋敷林再生活動を行っています。初期植栽を終えた段階の土地において、目標植生に向かって更新活動を行うこととしました。二次植生としての屋敷林の完成に向け遷移を確実に進めるためには適切な目標植生の設定、適応的な管理、長い視点での取り組みが必要だと考えられます。年間を通じて、春季・植樹/夏季・草刈り/秋季・種子採取 など、季節や現地事情に合わせた適応的な活動を行なうとともに、周辺に残る自然の森や立地環境を学ぶための観察会などを行っています。屋敷林・居久根(いぐね)については、役割やあり方を考え直しながら、現代の環境や生活にあわせた新しい農村風景の1つの要素として地域市民のみなさんが活用し、協力しあって守っていくことができないか、検討してきたいと考えています。



自生している母樹からの種子採取(モクゲンジ)



採取した種子の調整作業



東京農大から持参した苗と目録を海べの森をつくろう会へ贈呈



海べの森をつくろう会第1回植樹地=当会の屋敷林再生活動対象地での観察会。樹高3m以上に成長した苗もある。残していく樹種の検討、保育管理の継続を予定。

2. 海岸植物の保護と海岸林の保全・育成

海岸植物の保全・再生 三陸らしい海への風景を取り戻すためには、海岸植物を保全し、再生することが重要です。地域の植生を守る取り組みとして海岸植物を保全し、採取・育成する事業を行っています。三陸海岸は津波の被災後に減少、もしくは消失した群落、分布の南限・北限地とされる植物、希少種も多い地域です。工事等によって直接個体・群落が消失することだけではなく、生育地の分断や縮小の影響も大きいと考えられます。推移を観察し続け再生する群落に注目する、生育地が改変される際は採集、移植をするほか埋土種子や根系を含む土壌ごと保全するなど、適応的な取り組みを継続しています。

3. 体験型学習と果樹・園芸による地域活性化

海への森をつくろう会さんと近隣住民のみなさんは「自然と共に歩む生活を取り戻すため、森を再生しながら地域活性化のための活動をする」という活動趣旨で熱心に活動されています。地域に居住していない当会のスタッフができる支援としては、「より地域性を重視した視点」「他地域の人間から見てどのようなことがウリになるのか」といった地域外ならではの情報をお伝えすることであると考えています。農園で使用するのはお花等も楽しめ、かつ、地域食材として活動できる蕎麦、菜種が海岸でも育てやすいと考え、手配をお手伝いしました。蕎麦は市内・八瀬地区の農園から種を分けて頂くことができ、菜種は大東町のテクノボンズさんに在来品種の菜の花、“キザキノナタネ”の種子を分けて頂くことができました。2017年から会員のみなさんが作り始めたジャム作りにも期待しているところです。海と山の恵みが一緒に楽しめる環境が何よりのウリである気仙沼。地域の恵みを生かして“までい”に取り組み、ゆっくりすすむ活動を継続したいと思います。

そして、少しずつでもよいので、美しい景色を作り出していき、取り戻していくことができたかと考えています。

4. 2018年に実施した観察会

2018年にも地域の自然や魅力を再発見してもらうための観察会を実施しました。7月に地質と化石の観察会を1回、9月に海岸植物と樹木の観察会を1回、10月に森と植物の観察会を1回実施しました。



近くの海岸で種子を採取し、海への森をつくろう会の圃場で発芽したハマナス(左)とマルバトウキ(右)



現地での苗作り



左：活動地でキザキノナタネの種まき(2017年9月)

右：5月に開花したキザキノナタネ(2018年5月)



植樹祭の会場で配布されたゆずのジャム。

海への森をつくろう会スタッフが取り組むジャム作りはイオンの「心をつなぐプロジェクト」に採用していただき、パッケージデザインなどに支援を頂いている。現地の植樹祭の実施についても継続的にバックアップしていただいている。

2018年7月14日～16日 石巻～牡鹿半島・雄勝

内容・日程

牡鹿半島・雄勝をめぐる ～2億年・地球の旅～

北上部・三陸地域の特色ある自然を深く知り体験するための現地講座（自然学ツアー）です。この地域の第一人者のおひとり、弘前大学教育学部の鎌田耕太郎先生と一緒に、地層や化石を中心に観察します。地球と自然と人間の壮大な歴史を、ご自分の足で歩き目で見ながら、体験しませんか。



地球を冒険する！熱心な鎌田先生のお話を今回もお楽しみに。



美しい牡鹿半島～雄勝を巡ります。ジュラ紀の地層がよく観察できます！

主催：特定非営利活動法人 山の自然学クラブ

後援： 河北新報社



2018年7月14日～16日に開催した地質と化石の観察会「牡鹿半島・雄勝をめぐる ～2億年・地球の旅」

講師：鎌田耕太郎氏 河北新報社に後援して頂いた。

14日は石巻市市街、15日は牡鹿半島、16日は雄勝地区を中心に観察した。現地では各地域で依頼した案内人にご説明いただく。石巻市釜地区普誓寺の鈴木氏、雄勝ローズファクトリーガーデンの徳水氏、波板地域交流センターの青木氏など。当日は各日ごとに現地参加者を募集、海への森をつくろう会スタッフ、気仙沼市ジオパーク協議会の委員などが参加

牡鹿半島の不思議発見！
 地質ハカセと歩く自然観察会

2018年7月14日(土) 15日(日) 16日(月)

主催：山の自然学クラブ
 後援：河北新報社

お問い合わせ：090-3546-4277 (携帯) / 090-3546-4277 (携帯) / 090-3546-4277 (携帯)

www.shizen.or.jp/tohoku

魚竜のふるさと雄勝再発見！
 行ってみよう、見てみよう。地光学・自然学

☆地質ハカセと歩く自然観察会・雄勝編☆

2018年7月16日(月) 16時～18時

主催：山の自然学クラブ
 後援：河北新報社

お問い合わせ：090-3546-4277 (携帯) / 090-3546-4277 (携帯) / 090-3546-4277 (携帯)

www.shizen.or.jp/tohoku

2018年10月13日～14日 仙台周辺～気仙沼

内容・日程

三陸・で・自然学～Oct., 2018
 ～樹木ハカセ・石井先生と秋の森を探検しよう！

山の自然学クラブが2012年から継続的に企画、実施している、北上部・三陸地域の特色ある自然を深く知り体験するための現地講座（自然学ツアー）です。南三陸・気仙沼地域の樹木を、森を、樹木を、ご自分の足で歩き、目で見ながら・ふれながら、五感をたっぷり使って体験しませんか。ご都合のよい部分だけでも参加して頂けます。どうぞお気軽にご参加下さい。

(14日の観察会は、海への森をつくろう会主催の生涯学習行事にプログラム提供をして、共催行事として行います。どなたでも自由にご参加頂けますので、詳細はお問い合わせ下さい)

→ [海への森をつくろう会 ホームページはこちら](#)



2018年10月13～14日に実施した森と樹木の観察会

「樹木ハカセと秋の森を探検しよう！」

講師：石井誠治氏

現地参加者の募集と当日の運営は海への森をつくろう会スタッフにお任せして開催した。

気仙沼市内の徳仙丈山で落葉樹林の森などを観察、岩井崎海岸でマツと海岸の植物などの観察を行った。

5. 海への森をつくる活動への協力

海への森の植樹祭 海への森をつくろう会が主催する植樹祭、植樹会は様々な方々が支援してこれまで5回以上開催されてきました。植樹に参加した団体や方々が関連するボランティアとして再訪し、受け入れる活動も活発に続けられています。気仙沼大島に橋が架かると、ウェルカムターミナルおよび関連施設、公園などが造成される予定となっている浦の浜での植樹会が行われました。橋は工事中で、2019年に開通する予定です。植樹会会場は大島に橋が架かると本土から大島に入ってきた方が最初に通る道路脇となる場所なのだそうです。当会スタッフも参加させていただき、これからの土地利用などについても話し合いさせていただきました。



活動はこれからが本番。

三陸ではようやく退出が始まった仮設住宅などもあり、これから工事が始まる場所、完成する施設もあります。また、今後の土地利用等が未定であったり、管理方法が未確定の地域や施設も多くあります。地域由来の植物を確保し、育て、活用できる場面ができてくるのはこれからです。ですが、事業主体となっている団体等が管理方法や長年の活用計画を立てて進められる事業は多くはないのが実情です。

また、当面の生活に直接影響しないようなこと、たとえば海岸植物の育成や保護、屋敷林の再生など

に手間や時間をかけて取り組む意識をどのくらい共有できるのか、課題は多くあると感じます。当会は自然や地域に思い入れのある仲間が集う団体であり、今協力して下さる仲間もあります。

参加して下さるみなさんと共に、活動を通じて、これからも地域にあった自然の再生、地域資源の活用をお手伝いしていきたいと思っています。私たちが協力させて頂けることは多くはありませんが、できるだけ長く、楽しく、有意義で適応的な活動を続けていきたいと思っています。 (以上)